

ひかりのこ

4月園便り

聖ミカエル幼稚園
2017年4月10日

月主題：出会う

『春の息吹』

4月に入り、例年になく日中の気温が15度近くまで上がり、ぽかぽか暖かな日差しが幼稚園のお部屋の中にまで差し込んできます。4月4日から、お仕事をされているお家のお子さんのお預かり保育も始まりました。子どもたちは先生たちとお散歩に出かけ、おててに小さなお花をもって帰りました。私の鼻先に「においをかいでみて。」と差し出します。ちょっと苦いような、でもとても素朴ないい匂い。フキノトウのお花でした。

今年はこんな穏やかな天候の中で、新学期が始まりました。皆様、ご入園、ご進級おめでとうございます。3月までの年少さん、年中さんもひとつづつお兄さん、お姉さんになってワクワクしながら、新入園のお友達が来ることを楽しみにしていることでしょう。

春休み、先生たちは、新しいクラスの子どもたちを迎えるため、毎日あわただしく、忙しく働いていました。パソコンを打つ先生、はさみでひたすら画用紙を切る先生、大量の印刷をする先生。担任の先生たちの保育の話し合いも、真剣そのものです。いちご組の先生もお預かりの先生も、クラス補助の先生たちも、事務の先生もかわいい子どもたちの一人一人の顔を思い浮かべながら、せっせと働き、今日の始業式、入園式を迎えています。また、うれしいことに、今年は新任の先生を二人も迎えることができました。懸命にお仕事を覚えようとする二人の姿に、周りの私たちが背筋がピン！と伸びてきます。

ホールも古い遊具がなくなり、すっきりしました。今回涙を呑んで「さよなら」をした遊具の中には、私が小学生くらいに、日曜学校で遊んだ遊具もあります。古いものほど、頑丈にできているのですが、いよいよさよならをすることにしました。この3月に卒園した年長さんの父母の会からは、卒園記念品に「ホールの遊具費」の一部をいただいております。今後は、子どもたちの体の発育に何が必要なのかを検討しながら、新しい遊具を入れていきます。

さて、新入園児の保護者の皆様の中には、「うちの子大丈夫かしら。」「私と離れて、泣いてばかりいるんじゃないかしら。」とご心配になる方もいらっしゃると思います。はじめは泣いても、

子どもはたくましいものです。しばらくしたら園の生活に慣れて、先生やお友達と遊ぶことを楽しみにするようになります。大丈夫ですよ。

また、新入園の保護者の皆様自身が、幼稚園生活を楽しむことも、子どもたちにとって幼稚園に慣れるためには大切なことです。これから初めて父母の会の一員として、子どもたちを通じた仲間づくりが始まります。子どもたちのために、そして御自身のためにも、幼稚園の活動に積極的に参加してください。私たち大人みんな、子どもたちを育てていきましょう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「ごあいさつ」

この春、聖ミカエル幼稚園に入園されたお子さんたち、保護者の皆様にごあいさつ申し上げます。

私は聖ミカエル教会の牧師をしながら、幼稚園ではチャプレンの仕事をしています。外国では、病院や施設、消防署や警察署でもチャプレンが働いています。そこで働く人々や関係者に対して、キリスト教に基づく提言や精神的なサポートなどを行っています。ミッションスクールである聖ミカエル幼稚園も、設立当初から、牧師がそのように係わってきました。普段は月曜日の礼拝や、折々の式典でお祈りやお話しをしています。これから皆様と接することが多くなると思いますので、何かお役に立てることがありましたら、遠慮なくお声をかけていただきたいと思います。

幼児教育の大切さは改めていうまでもありません。何よりも、こどもたちが、自分が愛されていること、受け入れられている大切な存在であると感じることが基本です。先生たちはそのために保育に全力を注ぎます。その上で、この幼稚園は聖書の言葉を重んじ、神様との、愛し愛される関係を通して、こどもたちが生きる力を身に着けて下さることを願っています。

これからの幼稚園の生活が、こどもたちにとって、楽しく実りあるものとなりますようにお祈りいたします。

チャプレン 司祭 下澤 昌